

中国海外研修



<海外研修の目的>

- (1)…江南大学での交流を通し、日本とは異なる文化を知り、考え方や物の価値観の視野を広げる。
- (2)…集団の一員としての自覚を持ち、健康で安全な生活を心掛け、お互いに助け合い協力する。
- (3)…様々な環境に適応できる能力を身に付ける。
- (4)…日常生活とは異なる世界環境の中で、自分の心身の健康状態を確認し、体調管理を身に付ける。

海外研修参加者

1年生
森元 美香
柴田 かおり
松井 恵美里

2年生
横山 菜摘
遠山 智子
富永 衣理
長谷川 由紀乃
三野 透
大浦 拓
田中 佑樹

教授
毛 先生
渡辺 先生

江南大学訪問日程

9月19日	10:00～	歓迎あいさつ及び大学紹介
	10:30～	大学施設見学(校内、留学生の寮を見学)
	11:30～	学生食堂体験昼食
9月20日	9:30～	紡織学院(ファッション学院)、民族衣飾資料室見学授業
	10:30～	設計学院(デザイン学院)、学生作品成果見学授業
	15:20～	小学教育科 学生交流
9月21日	9:30～	留学生中国語基礎講義
	10:30～	江南大学図書館見学授業
	11:30～	学生食堂体験昼食
	14:00～	外国語学院日本語科学生交流
	15:20～	国際教育学院研修終了書授与式



江南大学の周先生と。

江南大学の歴史



＜江南大学の成り立ち＞

- 1902年 三江師範学校
- 1928年 国立中央大学
- 1950年 南京大学
- 1952年 中国無錫輕工業大学
- 2001年 江南学院、江南大学、無錫教育学院が合併し、現在の江南大学となる
- 2002年 江南大学の新しいキャンパスの設立
- 2007年 3つの大学から教員、生徒の新キャンパスへの移動が完了する

江南大学は美しい無錫市の中心に位置され、水の都の特徴を取り入れた。

総面積 38125 ヘクタールと広大な敷地面積を誇るキャンパスである。

現在は、理学、工学、医学、農学、法学、教育学、経済学、文学、管理学がある。

在籍学生は約 5 万人である。その内、全日制本科生が 2 万人、博士、研究員が 5700 人、オンライン教育を含む短期留学生 24300 人である。

教員数は 1595 名、高级职称教師は 775 名、中国工程院院士は 1 名、長江学者、杰出青年は 5 名である。

中国全土の大学において、国内で高い評価を得ている。カリフォルニア大学など 48 カ国の大学や国内の 15 の研究所と連携し、日々、科学技術の向上と地域社会への貢献、高いレベルの教育を目指している。また、国家プロジェクトの研究拠点としても成果を発揮している。特に食品科学学科、輕工技術学科、紡績科学学科は国内 1 位成績を誇る。

貴大学は、1960 年代から外国人学生を受け入れ親交を深め、現在は 550 人の留学生がキャンパスで勉強をしている。

江南大学の図書館について



図書館の広さ(敷地内)は、5,2000 平米であり、現在の利用数は 35,000 人である。

図書館の利用については、登録してカードを持つ人のみが図書館を利用できる。

本は合計 230 万冊あり

1F 経済・軍事 40 万冊

2F 中国語 60 万冊

3F 外国語(日本、アメリカもある)日本の本は 20 万冊

4F 雑誌 3,000 種類ほど

5F 電子図書は 150 万冊

コンピュータ室は 2 部屋に分かれ、280 万台、100 万台の計 380 台がある。

コンピュータ室では、映画やドラマ、音楽など自由に見る事が出来る。

最近では、自分でコンピュータを持っている人が増えた為、利用者は減少している。

5F の珍藏閲覧室には、価値の高い珍しい文化価値のある書物が置いている。その部屋の中には、中国の歴史が全て入った「四庫全書」という本がある。「四庫全書」とは、帝王が全て知識のある人達を集めて作らせた歴史の本であり閲覧は可能だが中国 4000 年の歴史は 1,500 冊に収められている。

この図書館にある歴史的な本のほとんどは秦時代以降のものである。

元時代・宋時代の本は 1 ページ金(ゴールド)数グラムというとても高い価値がある。独本は、上海図書館・南京大学・北京大学・無錫市立図書館に保管してある。

紡服学院(ファッション学院) 民族衣装資料室見学授業

紡織学院では、1900年代の漢民族や江南地方などの民族衣装が展示されており、チョウ先生が一つ一つに丁寧に説明してくださいました。また、纏足用の靴を見せて頂き、纏足の背景にある女性圧迫の歴史を学びました。



<纏足>

纏足の平均は約 12cm

女性の結婚条件であり、小さい方が美しいとされた。

しかし、女性圧迫の歴史的背景がある。



<解放靴>

孫文の時代、女性の纏足を廃止し、女性の地位向上への第一歩を踏み出した。そのため、廃止後の靴は解放靴と呼ばれた。



民族衣装では、山西省では虎の模様が多くあしらわれていたり、西の方では黒を基調とした衣服が多かったりと素材や形、模様など地域によって全く異なっており、その土地の特徴や生活に適したものとなっていた。

民族衣装の他にも、中国国内で賞を受賞した学生の作品などが展示されていました。どの作品も紡績学科国内評価一位にふさわしい素晴らしい作品ばかりでした。

設計学院（デザイン学院）学生作品成果見学授業

設計学院では、学生が日ごろの研究成果や企業との共同開発を行った作品や模型を展示していました。学院は、50周年を迎えて多くの分野で卒業生が活躍しています。千葉大学とも共同研究を行っています。



懐中電灯

ペットボトルを押すことにより、気圧の力で電力を発生させ、先端のLEDを点灯させる。
(学院生による開発作品)



オブジェ

在学生在が、高齢になった自分の姿と友達の姿をオブジェとして作成された。



花瓶付き電話

一見、花瓶に花を生けているように見えるがちゃんとした電話である。花は飾りではなく生花であると説明を受けた。

留学生中国語基礎講義

留学生の中国語基礎講義に参加して、各国から来た江南大学の留学生と一緒に授業を受ける事ができました。

残りの中国研修をよりよいものにすることができました。

授業では、中国語の基礎的な発音や日常会話などを学びました。



英語と中国語でコミュニケーションをとり、楽しい雰囲気の中での授業。

「旅愁」を中国語で留学生が歌いみんなで口ずさむ。



曜日や月の数え方を教わる。



留学生と言葉の発音の練習を一緒に行った。

海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 1年 氏名：松井 恵美里

中国研修では、3日間江南大学で語学や文化の学習と学生との交流を行いました。

始めに、留学生担当の周先生より大学の歴史や実績について説明を受け多くの学部と専門科が国内で最高の評価を受け国家プロジェクトの拠点になっている事を知りました。

キャンパス内では、広大な敷地と3万人の学生が専門の寮で生活をしており、医院や食堂、図書館が完備されていました。巡回バスが北ブロックと南ブロックを回り多くの学生が利用していました。紡績科の展示館では、中国伝統的的衣服を見学する事が出来ました。

各地区の民族によって違った特徴を持つ物が多く紡績文化の多様性を感じました。

デザイン科の展示館では、学生の研究成果や企業との研究作品が現物やパネルによって展示されています。

学生との交流においては、教育学部の学生と中国語と英語で互いに文化の違いを語り合い、20カ国

から留学している学生の中国語クラスを体験して一緒に発音や中国の歌を学ぶ事が出来ました。また、日本語学科の学生とも交流をして、日本の文化や中国の文化、趣味など楽しく語り合いました。

今回の中国研修では、学生の学びに対する積極的な姿勢や言語力の高さに驚き、異なる言語であっても分かり合えた時の喜びを実感する事ができました。これからは、自身の学習に取り組む姿勢を見直して積極的に学んでいけたら良いと思います。

そして、他の国の言語を知る楽しさを忘れずに様々な言語を学び、中国研修で得た事を忘れずにこれからの大学生活に大いに活かしていきたいと考えています。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 1年 氏名：森元 美香

私は、今回の中国研修で中国の文化や歴史について学ぶ事ができました。

中国に着いてまず印象的だったことは、日本とは違い自転車とバイクの量が多いという事です。日本では自動車やバイクが多いのですが中国では車より電動自転車・バイクの方が多く、また2・3人乗りをしている人、ヘルメットをかぶって無い人達など日本とは異なる交通事情に驚きました。

そして江南大学についてはバスの中から見ても長い距離を走り、地図を見るだけでも驚くほどの大きさでした。デザイン学科の学生との交流では会話に戸惑ってしまいました。英語や中国語を少ししか話す事が出来ない状況で相手の言葉を理解できなかった部分が沢山あり、実際に交流してみて「もっと勉強しておけば少しでも相手を知る事ができたかな」と後悔しました。しかし、中国語を教えてもらったり、ジェスチャーや絵などで会話をする事ができました。

最終日は中国語の授業に参加し、様々な国からの留学生達が中国語を楽しく勉強している姿を見て私達が少しでも中国語を理解していれば授業を共に楽しめたのだと思いました。日本語学科の学生との交流では、一人一人が日本語をととてもよく勉強していて会話しやすく、前日の交流より沢山の事を知る事が出来ました。

この3日間で交流だけでなく、江南大学や中国の文化や歴史についても学ぶ事ができそれぞれの地方によって日本とは異なる文化である事が分りました。その中でも昔、纏足という習慣があり当時の女性達は足が小さいほど美しいとされそのために幼少の頃から小さい靴を履き足を大きくさせないようにしていたようで、それを聞き日本との文化の違いを感じました。

3日間、江南大学へ行って、多くの文化や人と関わる事ができました。もし、この研修が無ければ海外へ行く事も貴重な経験や文化や異国での価値観を知る事ができなかったのかもしれませんが。他にも色々な国へ行き、世界を知るという事ができたら良いと思いました。



海外研修中国文化・語学研修記録

経営情報学科 1年 柴田 かおり

中国の学校がどういったものか全く知りませんでした。海外の大学と交流したのは初めての経験だったので、驚きでいっぱいでした。

まず、江南大学の敷地内に入った時、広大な土地に驚嘆しました。大学の中に店や病院、ホテル、学生寮、教員寮などが設けられており、大学が一つの街のようでした。



留学生と一緒に中国語の授業を受けました。江南大学には様々な国籍の学生が集まって学校生活を送っていました。授業の雰囲気はとてもフレンドリーで、いきなり授業に参加したのですが、楽しく受けることが出来ました。周りの学生が教科書を貸してくれたり、今どのページをしているかななどを親切に教えてくれ、大変ありがたかったです。初対面なのに、気軽に話しかけてくれるということがとても新鮮に感じました。

大学交流の中で、大学内の民族衣飾資料室を見学する事ができました。大学内にそのような施設がある

ことに規模の違いを感じました。そこで一番衝撃を受けたのが、中国では昔、纏足(てんそく)の風習があったということです。纏足とは女性が幼児期に足に布を巻き、幼児期の足の大きさから大きくならないようにする事です。大人になっても足のサイズは約 10cm ということでした。纏足文化ができた原因は、小さい足の女性の方が美しいと考えられていたからであり、女性をあまり出歩かせないようにするためです。中華民国が誕生した頃、纏足の風習は法律で禁止され、行われなくなりました。

日本と中国の距離はそれ程離れていないのに、日本では考えられないこんな風習があるとは思ってもみませんでした。展示されていた実際の纏足の靴は子供が履くような大きさと、こんなものを本当に履いていたのかと思うと恐ろしく感じました。

今回の江南大学との交流は、大学だけでも日本と中国は近いのに全くと言っていいほど文化に違いがあるということに気づかされました。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名：村山 由衣子

江南大学との交流では、驚いた事や学んだ事が沢山ありました。

1日目は学校の歴史や学科についての説明をしていただきました。

江南大学には、9つの学部があり、とても大きな大学で、教師も生徒も沢山いました。

それぞれの分野でとても優秀な成績を残していると聞きました。

2日目には中国語の授業を江南大学の学生の方と一緒に受けました。

英語を使って会話しながら中国語の教科書を見ながら授業を受ける姿が日本では見られないのでとても

印象的でしたが、とても楽しく笑顔の絶えない授業でほとんど中国語の分らない私でも、とても楽しく聞く事が出来ました。

留学生との交流では、覚えた中国語を出来るだけ使って話をしました。

相手もほとんど日本語が話せなかったので、伝わらない事があり、お互い困った事もありましたが、絵を書いたり英語を使ったりする事で楽しく話す事が出来ました。

地図で見ると国の位置は近いのに文化も言葉も違って、それぞれ、どちらの文化にも見習うところがあると感じました。

今回の交流で、中国の人は本当に勉強熱心

でとても向上心があるので、中国はこれからもますます経済的に発展していくと強く感じます。

私達もその熱心な姿に刺激を受けて、勉学に励みたいと思いました。

この海外研修に参加して本当に良かったです。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名：長谷川 由紀乃

今回、中国研修旅行に参加し、沢山の事を学ぶ事が出来ました。

初めに、江南大学へ行き中国の歴史や文化について学びました。中国の昔の風習で「纏足」というものがあり、それを聞いた時は思わず「日本人で良かった」と言い嫌な顔ばかりでしたが、それが中国では



あたり前の事で自分達が一方的に認めていないだけだと気付きました。中国の文化、伝統的な歴史に対して失礼な事をしていると思うと申し訳ない気持ちになりました。

また、江南大学では、学生との交流がありました。言葉が分からないなりにジェスチャーを混じえたりメモ帳などを使ったりする事で、理解し話し合う事が出来ました。交流の中で驚いたのが中国では日本のアニメやジャニーズがとても人気で、それを通してより良く会話をする事が出来ました。

日本の中だけでは、世界の事は全然分からず知らない国に対して勝手に想像してしまい、今まで自分は視野が狭い中で生きてきたのだと感じました。異文化を知り認め合う事でとても大切なのだと分かりました。

今回、参加できて本当に良かったと思います。この中国研修で学んだ事を今後の勉強にも活かしていきたいと思います。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名：富永 衣理

私が今回の中国研修でまず初めに驚いたことは、キャンパスの規模の大きさです。25億元で創立された広さは縦1km、横2kmで合計30000人が生活しています。その敷地内には生徒の寮が・教師の寮があり、校内には校内専用のバスで移動します。



学校は、食品化学・轻工技術が全国1位、紡織科学が全国第2位と、とても実力があり、生徒の数は、短期2万人、在学登録者が5万人でとても多く、博士は5,700人です。その中でも日本人40名が在籍しています。学生との交流会では、とても熱心に質問、解答をしてくれました。英語も中国語も話せないけれど、ジェスチャー、メモ書きなどで少し伝わったと思います。それと同時に中国語の発音について教えてもらい、とても勉強になりました。日本語科学専門の交流会は円滑に出来たように思えます。けれど、知らない単語

などは分からず何人かで力を合わせて教え合う事も楽しくて、時間があっという間にきてしまいました。来年愛媛の短期大学に留学が決まっている人がいたのでこの交流が終わってしまうのではなく、今後も連絡を取り合ってさらに深い仲になればと思います。

今回の研修で得られたものがとても沢山あり、私の中では世界を見る第一歩になったように思います。この経験を活かして今後の生活にも役立てたいと思います。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名：遠山 智子

今回の中国研修では香川短期大学と提携を結んでいる江南大学を訪問させて頂きました。

江南大学を訪問し、まず驚いたのはキャンパスの広さと美しい環境です。水の都の特徴を取り入れたキャンパスには川が流れており、コンビニ、雑貨屋、銀行など約3万人の生活の場として充実した設備があり、日本の大学との規模の違いを感じました。江南大学のキャンパスは1つの街と例えるのにふさわしい環境でした。また、今回の江南大学の訪問では、江南大学と香川短期大学が提携を結んでから初となる私達と同世代の学生と交流し、文化の生活習慣の違いについて話し合ったり、今の中国や日本で流行している物などについて話し合いました。分からない部分は英語や筆記、ボディラングージを折り



混ぜながらお互いに話の内容を理解しようと努力しました。その結果、多くの情報を得ることができ、理解を深める事が出来たと思います。

しかし、日本語学科の学生は交流中、ほぼ日本語を使って話してくれました。教育学部の学生、日本語学科の学生共に英語に長けており、自分の語学力の乏しさを痛感しました。中国語や英語がもっと自分のものになっていればより充実した、深い関わりが出来たのではないかと残念に感じる部分もあります。

今回の中国研修に参加させて頂き、初めて異国の文化を肌で感じました。今まで私が日本で普通だと思っていた事が全てではないと学び、自分の視野の狭さを知ると同時に、視野を広げる事が出来ました。世界へと目を向け自分の知見を増やしていきたいと思います。その為には、上でも述べたようにコミュニケーションの手段である言語を習得出来るよう、学んでいきたいと考えています。中国研修は、発見や学びの多いとても充実したものでした。“知りたい”と思う事を大切に自ら学び吸収し、成長していけたらと思います。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名：横山 菜摘

私は、今回初めて海外で文化・語学研修をしました。大学を訪問する前に、少し中国語を勉強しましたが、現地に着いてから挨拶をするのがやっとの状態で、江南大学の学生の方との交流の際に英語も上手く話す事が出来ませんでした。学生の方は、日本語を独自で学んでいる方もいたため会話をする事が出来ましたが英語でさえ自分の伝えたい事を表現出来なかった事に勉強不足で申し訳ないという気持ちでいっぱいでした。

また、日本語学科の学生の方たちも、積極的に日本語で話してくれてより深く交流する事が出来ました。言葉で伝えられなかった時、漢字で書いて伝えると意味が通じる事もありましたが、日本と漢字が



異なっているものもあった為、驚く事もありました。少人数でのグループ交流だったので、発音の難しいものや分からない単語も細かく教えていただけました。交通に関しては、日本と違いがあった事に驚いた事を伝えると交通についても話してくれました。

そして、江南大学は大規模な設備や歴史、学生たちの勉強を支援する環境等が整えられており、とても素晴らしいと思いました。資料館や図書館を紹介していただいた時、とても古い資料や、図書館では珍しい電子書籍が充実しており凄いいと思いました。また、大切な資料が保

管されている「珍藏室」も入室させていただき、貴重な経験となりました。

私が中国研修に来て一番印象的だったのは、学生の方にも話した交通に関する事です。自転車や原付バイクを利用している方が多い事や原付バイクで2人乗りや3人乗りをして走行している事やクラクションの使い方等、日本と異なる事が多くありました。道路を横断するだけでもなかなか慣れず、苦戦しました。これも文化の違いの一つではないかと思えます。

今回の研修旅行では、文化の違いや語学について多く学ぶ事ができ、知っている事でも実際に経験して分かる事が多くあった為、とても良い研修となりました。この経験を活かし、もっと世界に視野を向けられるようにしたいと思います。



海外研修中国文化・語学研修記録

子ども学科 2年 氏名；三野 透

私は、この海外研修で文化や言葉について色々な事を学ぶ事が出来ました。文化では、日本での一般的な常識が通用しないと分りました。交通ルールでは信号無視が結構あり、交通ルールでは勇気がある人が優先というように日本では考えられない事が多いです。言葉では発音のやり方が4種類あり一声ではそのまま、二声では少し上がり気味で三声では落ちて上がり、四声では下に落とす感じでした。一声では、「マー」と言うと母親を呼ぶ時で二声は「マー↑」でアサの木の事を言い三声は「マー↓↑」で馬を表し、四声は「マー↓」でののしる言い方と教えてもらえました。同じ「マ」だけで発音によって

四つの言葉になるので他の言葉でも気を付けて発音しないと全然違う言葉になってしまうので会話で使う時は、慎重に話しました。

江南大学の学生と話した時は「日本語は難しい？」と聞くと英語よりは難しいと言われました。

江南大学の学生は英語と日本語の両方を勉強している人が多いので英語を少しと日本語で話が出来ました。中国の学生や留学をしている人達は皆勉強熱心で経済が成長していくのも納得しました。日本がゆとり教育の間に中国に抜かれるのも時間の問題かと思いました。

学校の大きさも横 2km 縦 1km もあり日本では聞いた事もない大きさでした。図書館の広さも 5 万 2 千㎡もありました。大学で使われた今までの合計金額は日本円に直すと 95 億円が使われたと聞いた時も日本とは全然違うと思いました。留学生も中国語の勉強を受けた結果、向こうの大学生は先生の言葉が分かっているのか分かっていないのか疑問に思う所が多かったです。江南大学の先生は中国語と英語で話していましたが中国語の勉強をしているのに聞き取れるのか疑問に思う所がありました。

交流会の時には、最初に交流した人たちは日本語の勉強をしていないけど少しなら話せました。次の日の交流会では、普通に生活するくらいなら話せるレベルでした。この海外研修で中国の文化や日本人よりも勉強熱心な所等、色々な事を学ぶ事がありました。寒山寺で行って知ったのは、インドの文化をガンジーが持ってきて三蔵法師が中国に広めて空海が日本に持って帰ってきたという事を初めて知りました。楽しく中国の勉強ができる機会ができて本当に良かったです。



海外研修中国文化・語学研修記録

経営情報科 2年 氏名：大浦 拓

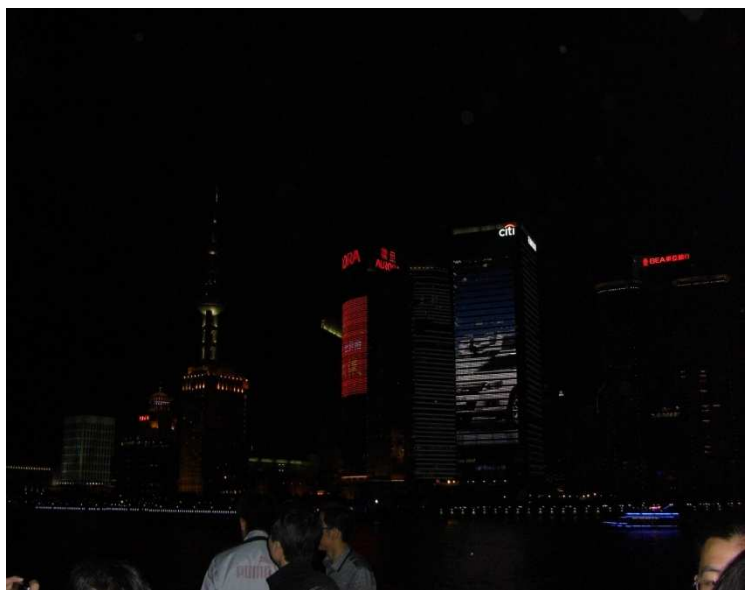
私は、この海外研修で中国の文化・言葉に触れ合い、初めて外国に行く事への難しさを知る事が出来ました。

まずは、行く先々の情報を知り盗難などへの対策を考え、整える事からが大変でした。そして、行ってからは言葉の壁に困りました。何をするにしても現地の言葉が必要になるのでジェスチャーや英語などで伝えるのにも苦労しました。でも、とても楽しく良い経験になりました。

次は文化についてです。バスに乗っている時はガイドさんから交通については聞かされましたが実際を見ると本当に車の前を大量に人が通ったりしてとても交通が円滑にいかないと感じました。しかし、歩道の信号には次の色になるまでの時間が表示されていたので良いと思いました。中国語の発音にも色々教えてもらいました。第一声から第四声までで発音により意味が変わってくるのでとても難しいです。

そして、江南大学での交流の時、最初はファッション学科の人と会話をしましたがまったく理解できずとても話しづらかったです。次は日本語学科の人と会話をしました。さすが習っているだけあって滑らかな日本語を話してくれたので助かりました。日本のアニメなどの事をとっても聞いてきました。中国では、やっぱりジャニーズが人気でした。中国に人が日本に興味を持っていた事がとても嬉しかったです。中国語の勉強では、隣の人が日本人という事でとても親近感がわき頑張りました。

観光では、寺を訪れ、文化を学びました。ガンジーや空海などの日本の歴史に登場する人物まであったので詳しく学べる事が出来ました。最後のナイトクルーズは夜景が綺麗でとても良かったです。改めて海外研修での危険性などを知る事ができ、次からの準備はスムーズに行くように準備する事が出来ます。機会があればまた中国に行きたいと考えています。



海外研修中国文化・語学研修記録

経営情報科 2年 氏名 田中 佑樹

私は、中国へ行き日本では経験できない様々な経験をする事ができました。それは、文化の違いであったり、一般的な常識であったりもします。

まず、中国で一番衝撃的だったのが日本の交通ルールと中国との交通ルールの違いです。日本で運転免許の講習中に「外国に行くと右側通行」と言われていましたが、横断歩道の信号が少ない事やクラクションを合図の代わりに使っている事など驚く事が沢山ありました。バスのガイドさんから聞いた話では勇気のある者が優先なようです。危険予測では、「突然車が前に飛び出してくる」、「自分の進んでいる方向から逆走行してくる」、「何も無い道から突然車が飛び出してくる」以上の3つの予測は中国で車を運転する機会があるなら覚えておいた方が良いとの事です。また、勇気のある者が優先と言っても運転する際には絶対に安全を心掛けてくださいとの事です。



江南大学については、中国人だけではなく様々な国から留学している学生がいました。その全員が中国語と英語を完璧に話せると聞きました。そして、江南大学の学生に「日本語は難しいですか？」と質問したところ「難しいです。」と答えてくれました。詳しく聞いたら日本語には地方独特の方言があるため覚えるのが大変なようです。現在、私が知っている方言は関西弁や標準語しか知りませんが、全ての方言を覚えるとなると日本人である私から見ても難しい言語だと思えるようになりました。しかし、第2回目の江南大学の日本語学科の学生との交流会では、学生が私に普通に日本語で話して来てくれたので感動しました。その言語力は、日常会話では問題のないほど完璧に話せる程度のものでした。



文化については、中国の物が日本に伝わったという話を聞きました。伝わったものには漢字や宗教であったりもしました。昔、日本で侍が存在した時代には、侍が書く手紙や巻物などは全て完璧な中国語です。私が中国へ行き学んだ事は、異なる常識を知り、日本の常識が絶対ではない事を知った事で物の見方や考え方を学ぶ事が出来ました。

まとめ

今回の中国研修において異なる文化や言語に触れ、視野を世界に広げこれからの学びに生かす事を目標に私達は研修に取り組みました。江南大学では大学の歴史を学び、世界で評価される素晴らしい教育とその実績を感じました。キャンパスでは、とても広く、充実した設備が整っており、学生の学びを支えより多くの情報を収集し、知識を深められる環境となっていました。そのなかでも、図書館が印象的で多くの書物や電子書籍をそろえており、最先端の設備に驚きを感じました。それと同時に学生の学びに対する積極的な姿勢を見ることができ、私たちも、その姿勢を見習い自ら多くの事を多く学び自分の力にしていきたいと思いました。また、江南大学では、私たち同世代の学生との交流をさせていただきました。そして、互いに文化について話し合い、普段自分が学んでいる事などについて話し合う事が出来ました。同世代の学生から直接意見を聞く事ができた為、世界を身近に感じる事ができました。しかし、私達が普段のようにあたり前に感じている事が日本を出るとあたり前ではない事を知り自分達の視野の狭さを実感しました。これから世界を担っていく若者として日本に留まらず世界という広い視野をもち多くの人と関わっていきたいと思います。

